

南牧村 橋梁長寿命化修繕計画

令和 8 年 3 月

南牧村 振興整備課

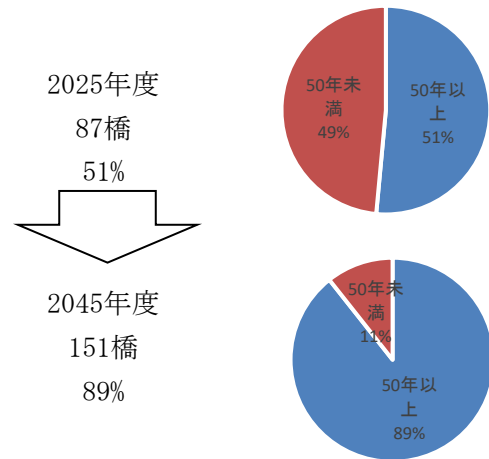
1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

南牧村が管理する橋梁は、2025年度現在で169橋架設されている。

このうち、建設後50年を経過する橋梁は、全体の51%を占めており、20年後の2045年度には、89%程度に増加する。

そこで南牧村では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。



2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。

コスト削減のためには、従来の事後保全型から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

そこで南牧村では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	一般国道	主要地方道	南牧村道	合計
全管理橋梁数	0	0	169	169
うち計画の対象橋梁数	0	0	169	169
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち2024年度計画策定橋梁数	0	0	169	169

長寿命化修繕計画の対象：

- ・ 緊急輸送路に位置する橋梁
- ・ 桁下に道路がある橋梁
- ・ 観光地へのアクセス道路に位置する橋梁
- ・ バス路線に位置する橋梁
- ・ 市町村間を結ぶ路線に位置する橋梁
- ・ 国道、主要地方道へのアクセス路線に位置する橋梁
- ・ 近隣に重要な施設がある橋梁

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

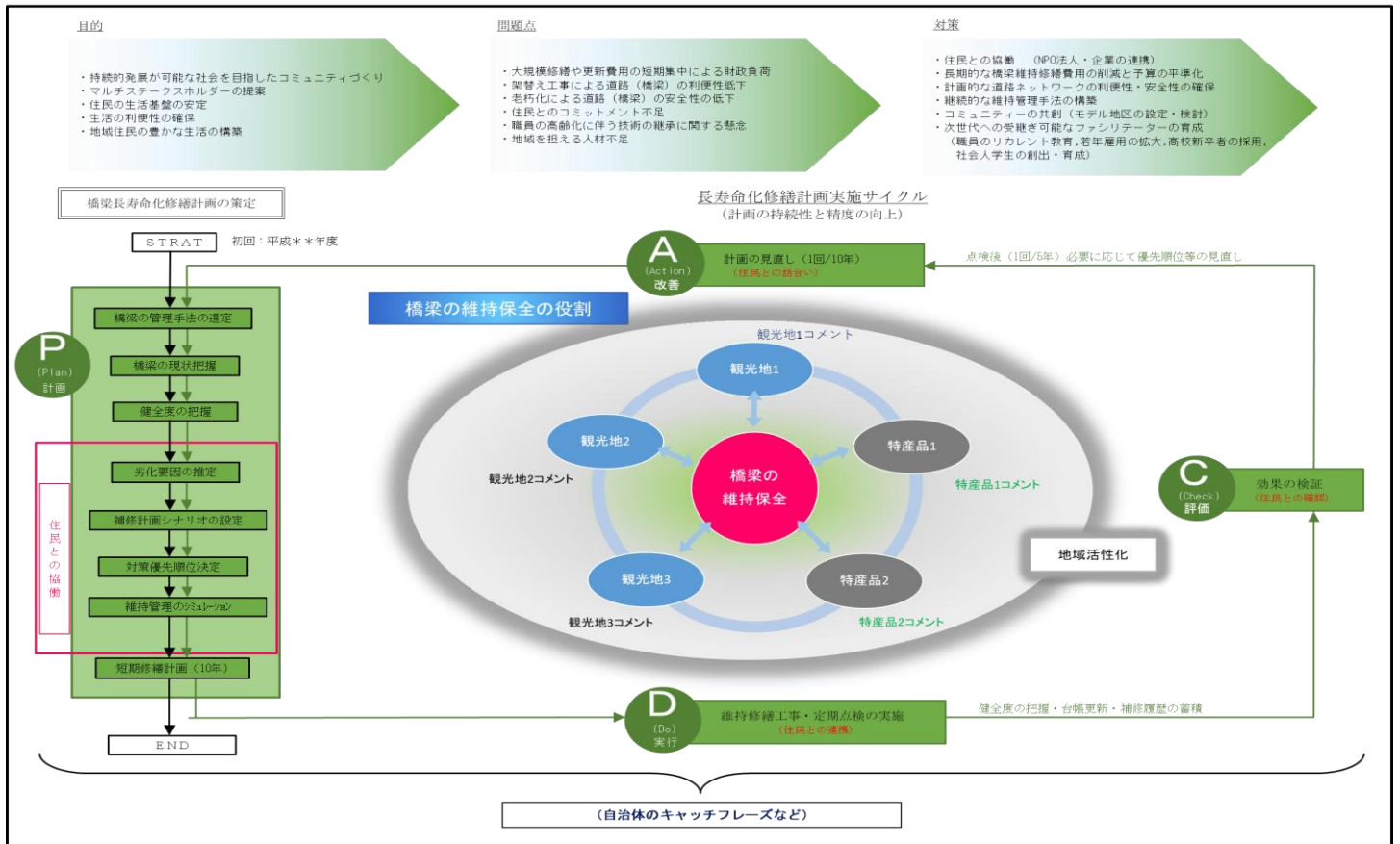
1) 健全度の把握の基本的な方針

定期点検（概略点検）や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

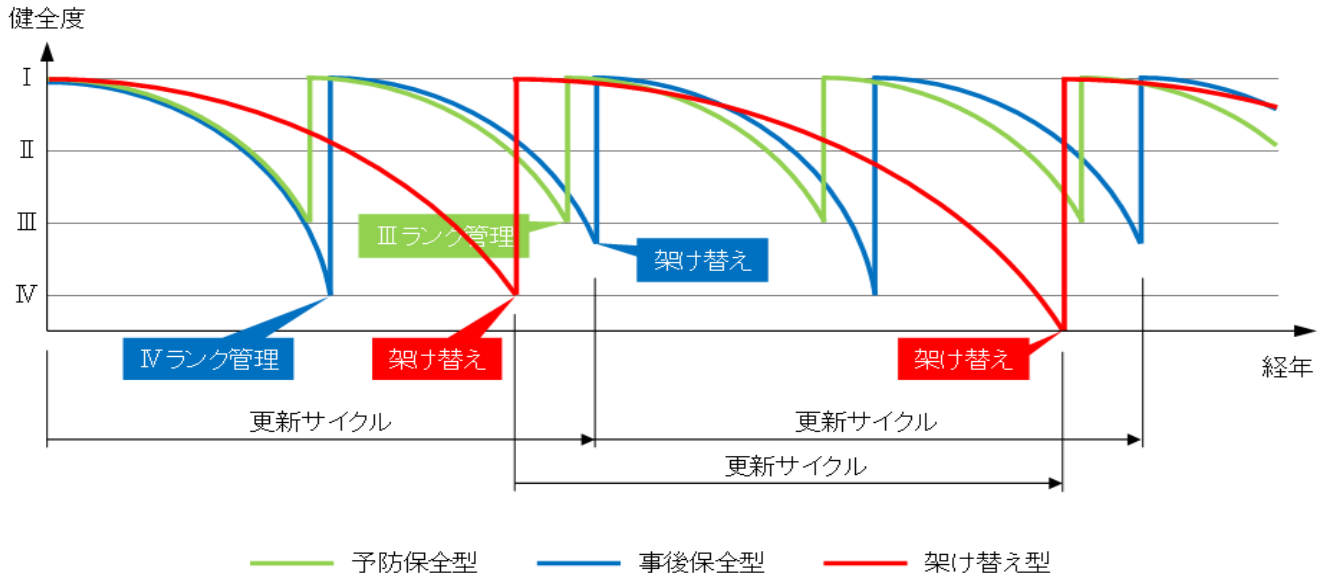
パトロール車による走行面の変状について点検を行う。

橋梁長寿命化修繕計画実施フロー（P D C Aサイクル）



4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

南牧村が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約88%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減する。



5. 新技術等の活用方針

コスト削減や維持管理の効率化を図るため、国土交通省「新技術情報システム（NETIS）」を活用する等、維持管理に関する最新のメンテナンス技術の積極的な活用を図ります。特に定期点検・補修設計については、国土交通省の「新技術利用のガイドライン（案）」を参考にしながら新技術等の活用を検討します。

1) 定期点検の新技術活用検討

橋梁点検車等を使用する床板橋で、橋梁点検から点検ロボットカメラへ置き換えることで、**約28%**の点検費用削減が期待できます。

従来点検方法 点検車



新技術点検方法 点検ロボット



2) 補修工事における新技術活用検討

① 鋼上部工の補修における新技術とその経済効果

鋼上部工の補修において新技術の活用検討を行うことにより、100年間で**約16.8%**のコスト削減が可能です。

② コンクリート上部工の補修における新技術とその効果

コンクリート上部工の補修において新技術の活用検討を行うことにより、100年間で**2.0%**のコスト削減が可能です。

③ 伸縮装置の取替に関する新技術とその経済効果

伸縮装置の取替に関して新技術の活用検討を行うことにより、100年間で**9.1%**のコスト削減が可能です。

【新技術活用検討施工例】

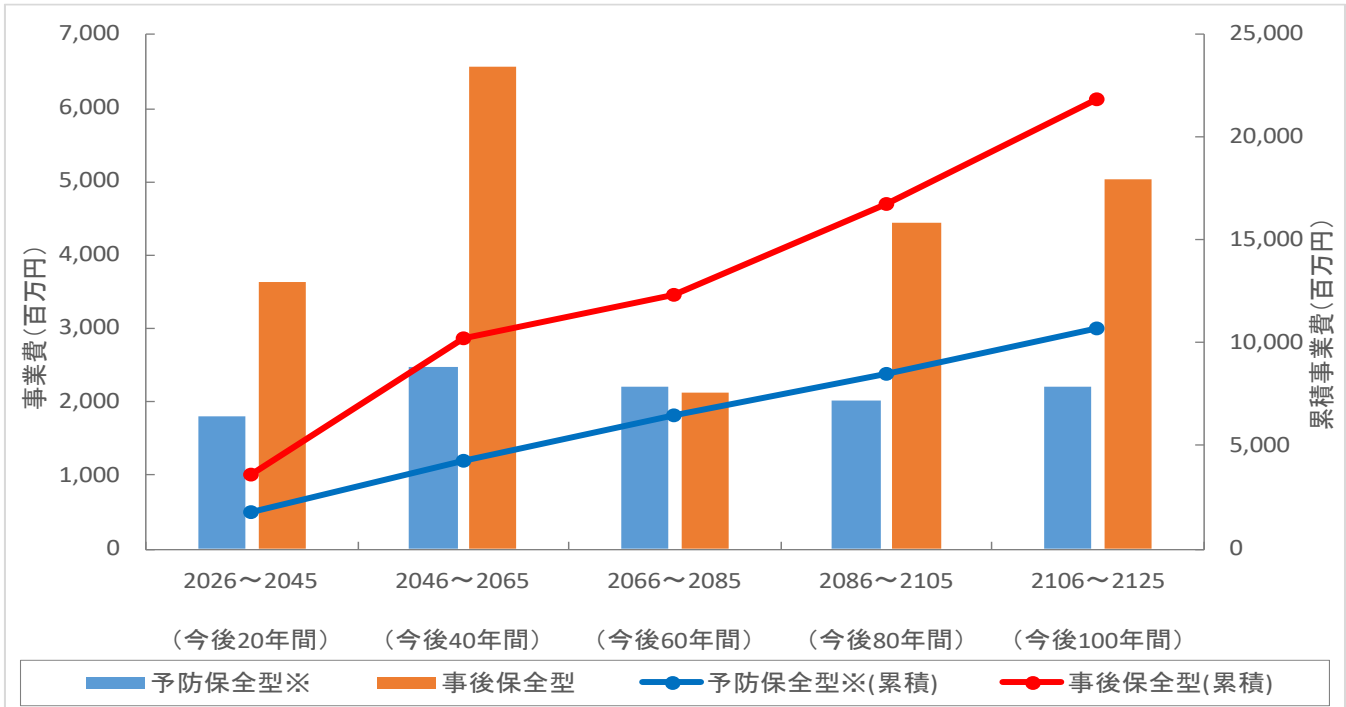


ベトロフルード施工方法

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する169橋について、今後100年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型が218億2400万円に対し、長寿命化修繕計画の実施による「予防保全型と事後保全型を比較した」維持管理が107億1200万円となり、コスト削減効果は111億1200万円となる。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。



7. 費用削減に関する検討

点検、修繕に係るコスト削減及び効率化を図るため、すべての橋梁において、現場条件にあった新技術等の活用により費用削減を行います。

1) 集約化撤去によるコスト削減効果

費用削減効果

橋梁の集約化・撤去を行うことで、撤去に係る費用以外、一切の維持管理費が不要となるため、ライフサイクルコストの約8割程度を削減することが期待できます。

2) 定期点検時の新技術活用によるコスト削減効果

費用削減効果

健全性に問題が無く、点検費用が高額な27橋を対象に新技術の活用検討を行うことにより、100年間で約4%程度のコスト削減効果が期待できます。

3) 補修工事の新技術活用によるコスト削減効果

新技術活用を行うことで、鋼上部工に関して100年間で約49%、コンクリート上部工に関して100年間で約50%、伸縮装置に関して100年間で約27%のそれぞれのコスト削減効果が期待できます。

なお、修繕工事において、鋼橋の塗装塗替えやコンクリート部材の中性化に対する耐久性向上などの新技術の採用を積極的に検討し、橋梁修繕におけるライフサイクルコストの削減を目指します。

4) 点検調書作成

費用削減効果

小規模且つ単純な形式の橋梁（溝橋、15m以下の単純RC床版橋、単純鋼H型桁橋）のうち、健全性に問題が無い橋梁を対象に、点検調書作成の簡素化を行うことにより、100年間で約20%のコスト削減効果が期待できます。